



2026. 7. 6発行 ニュースレター第347号

〒262-0019 千葉県花見川区朝日ヶ丘 5-24-2

TEL. 090-7941-7655 FAX: 043-483-0027 代表：小西 由希子

E-mail: yatsudasukisuki@gmail.com , Home Page: <http://www.ceic.info/>

下大和田が「自然共生サイト」に認定されました

ちば環境情報センター 副代表 小田 信治

下大和田が、令和8年6月30日付で「自然共生サイト」に認定されました。

(環境省報道発表)

https://www.env.go.jp/press/press_05186.html

自然共生サイトとは

環境省では、民間の取組等によって生物多様性の保全が図られている区域を「自然共生サイト」として認定する制度を令和5年度から開始しました。令和7年4月には、この制度を法制化した「地域生物多様性増進法」が施行されています。

今回は、本法に基づく令和8年度第1回認定として56か所が認定され、全国の自然共生サイトは合計610か所となりました。

自然共生サイトが目指すこと

2022年12月に開催された生物多様性条約第15回締約国会議(COP15)において、2030年までの世界目標「昆明・モントリオール生物多様性枠組」が採択され、2030年ミッションとして「生物多様性の損失を止め反転させる」すなわち「ネイチャーポジティブ(自然再興)」が掲げられました。このネイチャーポジティブは、COP10(2010年)の愛知目標で目指してきた「生物多様性の損失を止める」ことから、さらに回復軌道に転じさせるという強い決意を示した考え方です。また、2030年までに陸と海の30%以上を健全な生態系として保全する「30by30(サーティ・バイ・サーティ)」目標が設定されました。これを実現するには、国立公園等の保護地域だけでなく、民間が生物多様性保全に取り組む地域にも広げる必要があります。これはOECM(Other Effective area-based Conservation Measures)と呼ばれ、自然保護地域ではないが、生物多様性保全に実質的に貢献している地域を差し、国際データベースに登録します。このOECMとして登録する候補地を認定する制度が「自然共生サイト」です。

下大和田では何が評価され認定されたのか

下大和田では、2001年6月から谷津田プレーランド・プロジェクト(YPP)として、25年間、自然観察会、ゴミ拾い、森の管理、稲作等の活動を通じて谷津田の豊かな生物多様性の維持に努めてきました。その結果、2023年3月に千葉市レッドリストでは絶滅とされていたアカギツネが、35年ぶりに確認されました。また、植物291種、鳥類35種、哺乳類10種、昆虫類293種が確認され、千葉市内ではここでしか見られないサンショウモをはじめ、多くの絶滅危惧種が確認されています。自然共生サイトの申請では、増進活動実施計画書(維持タイプ)にこの活動の内容や希少生物の生育・生息状況等について記載しています。



図. 線で囲んだ範囲が自然共生サイト認定区域
自然共生サイト登録地(面積1.97ha)

下大和田は環境省の「生物多様性保全上重要な里地里山」と「生物多様性の観点から重要度の高い湿地」、(公財)日本生態系協会の「関東・水と緑のネットワーク拠点」に選定され、「千葉市谷津田の自然の保全に関する要綱」による活動協定締結地となっています。なお、活動協定締結地の地権者の皆様を訪問し、自然共生サイト登録への承諾書に署名・押印をいただきました。

有識者による認定審査委員会では、「総合的に調和のとれた活動」と高く評価され、その旨が事務局の(独)環境再生保全機構から通知がありました。

水辺の彷徨譚

今年の内水面(河川や湖沼)生物・水質調査は、馬鹿正直に調査申請をしようとしたところから始まる。

2026年4月2日、私は利根川から江戸川は分かれる所(これを**分流部**というらしいが)に立っていた。北緯約36.1度・東経約139.7度、ここは既にチーバ君の鼻先ではない。茨城県猿島郡五霞町山王、ここに郵便物を出す人がいるかは知らないが郵便番号もある(〒306-0302)、れっきとした茨城県である。



写真1. 分流部先端

千葉県内の調査に限っていたのに、何でこんなことになってしまったのかというと、一昨年の調査中に体力の衰えを感じ、まだ元気うちに遠くから調査を終えなければ、千葉県全域の周年調査を完遂できないと感じたからだ。そこで去年は銚子市・南房総市南部・印旛沼・手賀沼の内水面を調査し、今年は東庄町・旭市・南房総市北部・館山市・そして野田市を選んだわけだ。去年の銚子市で初めて市への申請というものを行った。それまでは漁業権の無い河川が中心だったので必要が無かった?のだ。幸い、快く丁寧に対応いただき、簡単に手続きは終わ

自然共生サイト認定証授与式

7月29日午後、さいたま新都心合同庁舎1号館にて、自然共生サイト認定証授与式が開催されます。その様子等については次号で報告します。

千葉県稲毛区 新井 桂二

った。同様にして、本年度の東庄町・旭市の溜池についても同様に簡単に手続きが済んだ。

これに味を占めて、野田市関宿まで2時間近く車を走らせてやってきたわけだが、GoogleMapでは走れるはずの道路は進入禁止、仕方なく関宿城址公園に駐車して歩いて分流部に向かう。途中、**建設省**の看板があり、申請を促す内容。そこで**国土交通省**の担当に連絡すると、「まあ採水だけなら……」とのこと、勇んで分流部に向かうと、この看板。ここまで来てこれはないよと思いつつ、本当の先端は写真に収め、採水は利根川・江戸川各々この看板から20m程下流で採水した。本当の先端で採水することにはあまり意味を感じなかったからだ。後日、2度目の訪問は台風直後で、写真にある堤防部は完全に沈水し、ハクレンが沢山跳ねていた。また、不思議なものでわずか20m下流でも水質は大きく違った。



写真2. 注意喚起の看板(分流部先端)

さて、ここまでは旅情豊かな?紀行文であるが、ここから彷徨譚の名のごとく、私の無能さを露呈するさまよいが始まるのである。(つづく)

子どもが自然とゆたかにかかわるために 大人がしなければならぬ事を考える その3 ～農村はどのようにつくられたか～

子どもと自然学会 船橋市 岩田 好宏

農村はどのようにつくられたか。そのひとつの例として君津市台倉をとりあげて考えてみました。子どもが農作に取り組むのは、その自然とのゆたかに

かかわるための、必須の基礎活動と考えます。またその一環として農作・農村の成り立ちを学ぶ機会が必要であると考えます。

台倉は、南東は清澄山から北西は石射太郎山までつらなる房総丘陵の最北端にあった集落です。すぐ西側には九十九谷をはさんで鹿野山があり、標高200mほどの尾根の端にありました。河野さん・山岸さんの2世帯3軒の、農業と薪炭業を生業としていた人たちの集落でした。1960年代になって薪炭業が成り立たなくなると、まず山岸さんが離れ、間もなく息子さん家族が下山して河野とらさん一人となりました。しかしその河野とらさん(老女)も、

1976年に麓の息子さん家族と合流し、台倉という人里は消滅しました*。

河野さん、山岸さんの先祖がいつ頃この台倉を農山村として拓いたかわかりませんが、屋敷のすぐ外にあった墓石に「享保」という字が読みとれましたから、江戸時代中期以前と推定できます。その時どのように開拓作業を進めたか、一つの推定をしました。

表. 君津市台倉における農村形成

立地	植生	はたらきかけ・改変	利用
1 尾根の比較的平らなところ	常落混交広葉樹林	伐採・整地	屋敷・家屋・畑
2 近くの斜面の谷筋	落葉広葉樹林	伐採・整地	棚田・一部畑
3 その他	常落混交広葉樹林	伐採・整地	薪炭林

はじめに尾根の比較的平らで広い場所を探し、そこに生えていた草木を切り払い、整地して屋敷・家屋と畑をつくったと思います。それから北向き以外の急斜面の谷筋にあたる場所の草木を切り払い、整地し、水が溜まるようにして棚田をつくったのではないかと思います。またところどころに畑もつくったようです。1960年代の航空写真には、3筋の棚田がみられました。そして周辺の森林の樹木を伐採して製炭をするようになったと思います。

台倉を地域のひとつとみた時、農村の基本構造がどのようなものかわかります。農村は、耕作地と道路、そこに住む人たちを一体としたものを基本としています。田畑のないところは農村ではありませんが、また田畑があってもそこで農作をもとにした農業を生業として生活する人が住んでいなければ農村とはいえません。通常農村にみられる寺社がなく、ため池や川がなくても、そういえます。台倉の人たちは、水田は、梅雨期に入って天水がたまると田植えをしたと聞いております。筆者も一度だけそういう場面をみました。台倉は、炭の卸、醤油などの購入などの他の地域の人たちと交流しながら、独立体

として存在し、住んでいた人たちは生きてこられました。また銘の入った墓石があったことは、享保期の台倉に人たちは、それが可能だったほどのゆとりがあったとみることができます。

*：河野とらさんが山をおりる1976年夏、習志野市立習志野高校の生徒と東京の早稲田実業高校の生徒によって結成された「房総自然の会」は、台倉を中心に自然活動を展開しましたが、その折岩田が河野とらさんと「台倉での暮らし」について対談しました。その録音したものは、早稲田実業高校の生徒が文章化し、岩田が整文化して次に収めました。

岩田好宏. 2004. 千葉県生物的自然の人為的变化(在来生物相の変化). 『千葉県の自然誌 本編8 変わりゆく千葉県の自然』497-516

なお、とらさんの息子さん家族がいなくなった家屋を借りて、東京大学、東京農工大学などの学生や研究者が中心になって「房総自然博物館」を設立し、房総の自然と人についての調査・研究を進めていました。高校生たちは、ここを活動基地にしました。

新浜の話 101 ～貴州菜園と八戒飯店～

清水課長のアイデアに反対したことがあります。保護区の中の実生木や木の実をポット苗に仕立てて市民に配り、育ててもらおうというもの。その前、どんぐりをたくさん拾って来られた方とポット苗を作り、玄関に置いたら、持って行く方がけっこうおられ、苗はすぐ捌けてしまいました。行徳はマンションが多く、住民の多くは集合住宅で暮らしておられ

千葉県野鳥の会 市川市 蓮尾 純子
ます。実生苗ならいくらでも作れますが、大半は常緑樹で、美しい花や食べられる実がつくわけではなく、おまけに大きく育つものも多いのです。育てて大きくした木を持って来られても、植える場所がありません。ベランダの大木は邪魔になるばかり。とてもお勧めできません、とお断りしました。

スロマン 作:7月 おせい (64)



今年、ヨーロッパが熱波に襲われ、1300人以上が亡くなっているようです。<作者談>

友の会メンバーは、毎月第2日曜の「新浜探鳥会」の日、探鳥会後に運営会議をやっていました。その後、スタッフもまじえて、行徳駅との中間あたりにある中華料理店「貴州菜園」で食べたり飲んだり、というのがお決まり。NPO 法人となり、スタッフも忙しく、こうした飲み会もなかなかできなくなりましたが、送別会や歓迎会、各種お祝いなどは貴州菜園が定番。美味しいお料理に良心的なお値段、みなのお楽しみでした。

一方、観察舎スタッフのごひいきのお店も。今は介護センターの「愛ねっと」になっていますが、新浜通りに面した「八戒飯店」です。丸々とした豚の置物が飾られた一見ふつうのラーメン屋さんなのに、お料理は本格派の中華。お値段は良心的すぎて、スタッフで忘年会をした時など、「安すぎ。計算が間違っているのじゃない?」とお勘定を見直してもらったことも。餃子やレタスチャーハン、鰻チャーハンなどのお味は忘れられません。ただし、このお店の欠点も。ぱぱっと手軽にラーメンをすすする、という感じで来店しても、とにかく時間がかかります。何しろ出て来るのは本格中華料理なのですから。そのためか、いつ行ってもがら空き。もうひとつ、コース料理には他の店と特段の差がなく、友の会のメンバーにはあまり受けがよくありませんでした。

スタッフの忘年会等の集まりは八戒飯店が定番で、ある年、お店からわざわざ電話で予約の案内がありました。この時も楽しく飲食して、奥さんが「ビールは樽、二つ空になったよ」と喜んでおられました。中国に行った時にみなで作った「明日があるさ」の替え歌「拝容明天」を、お店の人もいっしょに大合唱したのはこの時だったか。

年明け早々、すぐお隣、ライオンズマンションの土屋國江さんが「八戒飯店、閉店しちゃったわよ」と。スタッフ一同大ショック。お店のがら空き具合を知っていたので、いつこの日がくるか、ずっとはらはらしていたのですが。たぶん中国に帰られたのでしょうか。お元気でお願いします。

もうひとつ、楽しみにしていたのは、当時のダイエー（今はソコラ）の中にあったレストラン、ポプリンハウスの「びっくりパフェ」。大げさに言えば、小さいバケツくらいのサイズ、大人6～8人前くらい（もっと多い感じだった）のパフェで、たしか1,500円。孫4人の息子一家と嘉彪と私で、1つ頼めばじゅうぶん満足したものです。ある時（まだ春浅く寒かった）、3、4人で食べに行ったら、大食漢の山口まこちゃんが一緒ではあったものの、嘉彪が「2つ」注文して、自分は食べずに帰っちゃった、ということが。1つでもじゅうぶんすぎたのに。もう、泣きそう。

もう20年近く昔のことですね。スイーツにまつわるのに、ちょっとしょっぱい思い出です。

【発送お手伝いのお願い】ニュースレター2026年 8月号(第348号)の発送を 8月10日(月)10時から千葉市民活動支援センター(千葉市中央区中央2-5-1 千葉中央ツインビル2号館9階)にておこなう予定です。お手伝いいただける方は小西 090-7941-7655)までご連絡ください。

..... あなたも入会しませんか

住所〒 _____

ふりがな _____

氏名 _____ Tel _____

E-mail _____

会費の郵便振替口座は 00130-3-369499 です。

編集後記: 1面の記事にもありますが、6月30日に下大和田の田んぼと森が「環境省自然共生サイト」に認定されました(計画名:千葉市下大和田谷津保全活動実施計画～リスの棲む森 いのちのにぎわいとつながり～)。下大和田の環境と生きものたちの貴重性が、国レベルで認められたこととなります。私たちの認識は今までと変わりはないのですが、これからは「谷津田の自然」を守る活動を続けていきましょう。 mud-skipper

☆大椎小学校田んぼ草取り 2026年6月17日(水) 晴れ

田植えから1か月、稲がグンと生長しましたが、その脇で雑草も伸びはじめていたので田んぼに入って草取りをしました。田植えの時の感触を忘れてしまって、最初は足が泥に触れるのに抵抗がある子がたくさんいましたが、すぐに慣れて腰をかがめてがんばって草取りをしてくれたのですっきりきれいになりました。途中イネの間から8センチくらいある大きなアカガエルが出てきてみんなで追いかけて捕まえました。自然観察では5ミリくらいのコオイムシの幼体や豆粒くらいの貝の卵塊を見つける子どもたちの観察眼にびっくり。保護者の方々をはじめとしたボランティアは田んぼの周りの草刈りをしてくださり、とてもすっきりとした田んぼに変身しました。

報告：高山邦明

☆第246回 小山町 YPP「古代米の田植え・田んぼの草取り」 6月14日(日) くもり&21日くもり

残っていた古代米の田植えのため、14日に急遽集まって黒米と緑米を植えました。田んぼにはコナギが芽ばえていたので最初にレーキがけをして草取りをしながらの田植えでした。21日は主に田んぼの畦の草刈りをしました。隣接する休耕田に密生するマコモやアシは刈払機で刈りましたが、草やぶの中にイノシシのけもの道ができていて草刈りがイノシシ防除に大切なことを実感しました。参加者：14日 大人3名・21日 大人4名 報告：高山邦明

【谷津田・季節のたより】 2026年 6月

<下大和田町> 報告 平沼勝男

6/6 キビタキ、ウグイス、シジュウカラ、ヒクイナ、ホオジロ、ホトトギスのさえずりで谷津田はにぎやか。ガビチョウも盛んに鳴く。他にセグロセキレイ、ダイサギ、カワセミ、ツバメを見かける。トンボでは、田んぼにシオカラトンボ、水路にニホンカワトンボ。
6/14 オオヨシキリ盛んに鳴く、他にガビチョウ、ホオジロ、ウグイス、シジュウカラ、ホトトギス、ツバメ。トンボでは、ノシメトンボ、アキアカネ、シオカラトンボ、オオシオカラトンボ、ニホンカワトンボ。
6/28 台風7号8号が去ったあと、下大和田は大雨の影響もそれほどなく、川の水位は高い状態でした。ウグイス、オオヨシキリ、ホトトギスのさえずり。特にホトトギスは盛んでした。ヒクイナは警戒音を出していました。長雨が続いたせいか、田んぼに生えるオモダカの花にベニシジミとモンシロチョウが吸蜜していました。トンボではアジアイトトンボの連結ペア、オオシオカラトンボのメスが田んぼに来ていました。ミスジマイマイなどのカタツムリも活発でした。

<小山町> 報告 高山邦明

6/1 カノコガをよく見かける 6/2 クリヤヤブカラシが咲く、ムラサキシキブの花にクマバチが多数訪れる。
6/4 斜面林でミズキやケンボナンが咲く 6/14 キジのメスが子ども5羽を連れていた 6/16 アキアカネが羽化、久しぶりのカワセミが田んぼに来ていた 6/19 コガネグモが大きな円網を張っていた、イネの間でアジアイトトンボが飛ぶ 6/20 ガビチョウがサシバの鳴きまねの“ピッキ〜”、ピロードハマキ(蛾)を見かける、マイコアカネが羽化 6/22 幼鳥らしいオオヨシキリが2羽飛ぶ、メスのホトトギスの姿を見る、キイロスズメバチがヤブカラシの花を訪れる、ハンショウゲ、オモダカ、ネムノキなどが開花 6/26 オオアイトトンボやコノシメトンボが次々と羽化、ナツアカネを初めて見る。

【イベントのお知らせ】 主催：NPO法人 ちば環境情報センター

<下大和田谷津田> 連絡先：小西 TEL.090-7941-7655 , E-mail : yatsudasukisuki@gmail.com

・お楽しみ会 ※7~8月の「森と水辺の手入れ」と「森の手入れ」は猛暑のため実施しません。

日時：2026年 7月25日(土) 10時00分~12時

内容：普段活動している谷津田で、魚採りやザリガニ釣りなどを楽しめます。

持ち物：長袖長ズボンの服装、運動靴、軍手、帽子、飲み物、あれば手網、バケツ。午後まで活動する方は弁当、敷物

・第319回 観察会とゴミ拾い

日時：2026年 8月 2日(日) 9時45分~12時 雨天決行

内容：子どもたちの大好きなカブトムシやクワガタムシ、トンボやセミなど夏の虫の季節です。真夏の太陽の下、都市部よりちょっぴり涼しい木々の森と谷津を巡ります。

持ち物：筆記用具、飲み物、長靴、帽子、ゴミ袋、敷物 参加費：100円

・第319回 下大和田YPP「かかしづくり」

日時：2026年 8月 8日(土) 9時45分~14時 雨天中止

内容：竹を切り出し、田んぼの守り神のかかしを作ります。

持ち物：かかしに着せる古着、長袖長ズボンの服装、長靴、軍手、帽子、ゴミ袋、飲み物、弁当、敷物。

参加費：ちば環境情報センター会員以外300円、会員は無料(小学生以上)

<小山町谷津田> 連絡先：高山 E-mail : ceic.ypp.oyama@gmail.com

▼第247回 小山町 YPP「田んぼの草取り」 田んぼの草取りや畦の草刈りを行います。

日時：2026年 7月11日(土) 9時~12時 ☆小雨決行

場所：小山町谷津田(千葉市緑区)

持ち物：田んぼ用長靴(もしあれば)・防水手袋・飲み物

☆どなたでもお気軽に参加いただけます。初参加も歓迎です！参加のご希望、お問い合わせは、上記メールでご連絡下さい。

